

逍遙館長のところ

「『融合』による『ものづくり文化』と12月、のころ」

12月1日 逍遙^{逍遙}

今日12月1日は「鉄の記念日」。1857年の今日、岩手・南部藩の大島高任が、鉄鉱石を原料とする洋式高炉での銑鉄生産に日本で初めて成功した日に因みます。この人物、実はその4年前、水戸藩の徳川齊昭に招かれ反射炉建設に従事していた際、同じ事業に従事していた薩摩藩（当時の薩摩藩主は島津齊彬）の竹下清右衛門と知り合い、そこで竹下から教わった集成館の反射炉や洋式高炉の技術を岩手に持ち帰り、この偉業を成し遂げたのです。さらに、彼の長男・道太郎が、官営八幡製鉄所の初代技監に就任したのです。

そこには、薩摩藩等に端を癸し、日本人自身を介した技術伝播のストーリーがあり、「先人たちの行動哲学」＝「日本の良い所を西政の良い所で補えばいい」という、「融合」による「ものづくり文化」の癸想があったのです。

逍遙館長的には、この「融合」の精神が、明治維新时期における急速な西政化政策による「国づくり」にもう少し反映されておれば、と思ったりもします。

（「明治日本の産業革命遺産」関係は、黎明館2F常設展示場にて）

◎ 次回の予定 「それぞれの12月、のころ」

